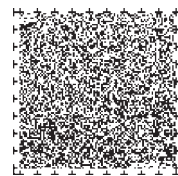


第38回国際福祉機器展 (H.C.R.2011) 出展レポート



研究所 障害福祉研究部 筒井澄栄

今年は10月5日(水)から7日(金)の3日間をかけて国際福祉機器展が開催されました。場所は例年と同じく東京ビッグサイトで、東展示棟の6ホール全てを使用して大々的に行われました。国内453社、海外12か国・1地域57社の合計510社の参加により、2万点にもものぼる福祉機器が展示されました。10月5日(水) 38,912人、10月6日(木) 41,729人、10月7日(金) 37,513人 3日間通しての来場者は118,154名となりました。初日の冷たい雨の降るあいにくの天候が影響したためか3日間の入場者数の累計は昨年の119,451名を多少下回る118,154名でした。今回の展示会では3月の東日本大震災の被災地応援コーナーや福祉施設の利用者避難や、被災した施設のなかでの利用者のケアなど災害に対しどのような備えが必要かを考えるための福祉施設向けや被災地で役立つ福祉の防災・避難用品コーナーが設けられていました。

17回目の出展となる今回は「技術と人をつなぐ」をテーマに福祉機器・リハビリテーションの領域で研究所の各部署の活動および研究成果を紹介いたしました。

◆義肢装具技術研究部

義手・義足を使いこなす利用者の日常生活の紹介と筋電義手の体験

◆福祉機器開発部

高齢者、物忘れのある人に対する情報支援ロボットのデモンストレーション

障害者の社会参加を支援する遠隔教育による「就労トレーニング用バーチャルオフィス」のデモンストレーション

中途障害者向け6点入力簡易メモ装置のデモンストレーション

◆脳機能系障害研究部

脳からの信号により機械を操作するブレインマシン・インターフェイスを用いた生活環境制御システム(BMI-ECS)の紹介

◆運動機能系障害研究部

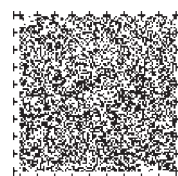
「動きの科学」に基づいたリハビリテーション方法として先端リハビリ機器を用いた歩行訓練の紹介

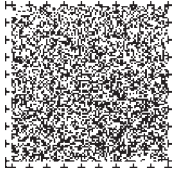
◆障害工学研究部

肢体不自由などで衣生活に不便を感じている方々



ブース概要





も、おしゃれを楽しめる衣服環境の促進を目指した取り組みの紹介

自立支援機器及び風呂・トイレのリフォームなどの体験・評価などが可能な、情報交流・発信を目的とする障害者ライフモデルルームの概要

◆感覚機能系障害研究部

盲ろう者の情報獲得支援のための触手話（指文字）ロボットの展示とデモンストレーション

◆障害福祉研究部

平成22～23年度に実施している、盲ろう者宿泊型生活訓練等モデル事業の研究成果の紹介

◆発達障害情報・支援センター

発達障害に関する国内外の取り組み・研究などの情報と発達障害情報センターの活動を発信している「発達障害情報センターサイト」の紹介
また、上記とは別に6日午後には「車いすの処方

時や製作時に役立つ強度の知識」と題してワークショップを行い、車いすの強度に関する基礎知識と追加加工による強度への影響についてのプレゼンテーションも行いました。

このように研究活動の成果を国際的な展示会で紹介することは、今後外部機関とどのように共同研究を進めていくかなど、障害・福祉・リハビリの分野において、国立障害者リハビリテーションセンターが「技術と人」に留まらず、「技術と技術」、「人と人」をつなぐ役割を担っていくことを発信する機会と考えられます。

最後になりましたが、今回の出展に際して、実行委員の方々をはじめ展示をさせていただいた方々や説明員として御協力頂いた方々の他、研究所事務や本館の方々など多くの方々の御協力を頂きましたことを厚く感謝いたします。



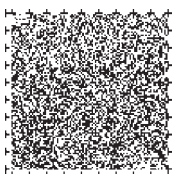
模擬電動義手の外観

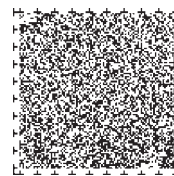


高齢者・物忘れのある人に対する情報支援ロボット



ワークショップ





研究所オープンハウスを開催します

研究所 感覚機能系障害研究部 世古裕子

当研究所では、医学、工学、社会科学、心理学と広範囲の分野の研究者が障害のある方の医療・福祉の向上と自立支援を目指し、研究を行っています。研究所における研究内容と成果を多くの方に知っていただくために、オープンハウス（研究所一般公開）を開催いたします。ぜひこの機会に障害者支援を目指した最先端の研究に接してみてください。当日は、当研究所で開発された福祉機器の紹介や各部門の研究内容を紹介するパネル展示をご覧いただきながら、

皆様と意見交換を行えることを楽しみにしております。

◆日時 平成23年12月9日（金曜日）（10時～16時）

◆ところ 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

◆内容 研究所の各部門が進めている研究について、パネル展示や開発・活用機器の紹介

◆参加費 無料

展示内容

脳機能系障害研究部

「脳機能障害の科学的支援に向けて」

- ・ブレインマシン・インターフェイス（BMI）を用いた環境制御システムの開発
- ・発達障害の客観的評価・診断

感覚機能系障害研究部

「見る・聞く・触る」感覚障害を最先端技術で科学する

- ・指文字用触手話ロボットの開発
- ・吃音の研究
- ・網膜の変性と再生に関する研究

運動機能系障害研究部

「立つ・歩く・座る」動作改善に向けた科学的アプローチ

- ・立位姿勢と歩行の制御機序の解明
- ・脊髄損傷後の歩行リハビリテーション
- ・脊髄損傷後の再生医療
- ・褥瘡（じょくそう：床ずれ）の予防

義肢装具技術研究部

「義肢装具をさわってみよう！」

- ・筋電義手普及のためのデモ
- ・いろいろな義肢装具の展示
- ・義足に関する研究紹介

障害工学研究部

「先端工学の導入による新しい障害者支援技術研究と支援機器開発への挑戦」

- ・障害者支援機器 & 評価機器用生体インターフェースの研究開発
- ・認知障害者の日常生活・就労支援機器の開発
- ・障害を持つ人が着たい服を手に入れやすい衣服環境への取組

高次脳機能障害情報・支援センター

「高次脳機能障害への理解を深めるために」

高次脳機能障害情報・支援センターが10月に発足しました。高次脳機能障害についての様々な情報をホームページにて発信するべく準備中です。

障害福祉研究部

「障害者の自立・社会参加を支援するしくみづくり」

- ・情報機器（電子図書）の活用による情報支援
- ・きょうだい支援
- ・盲ろう者に対する支援
- ・ハンセン病問題の社会学的実証研究
- ・利用者ニーズに応じた制度横断的なケア提供体制の構築
- ・義肢・装具等の価格と製作費用

発達障害情報・支援センター

「発達障害の理解のために」

発達障害に関する信頼のおける情報を、本人、家族の方、発達障害を知りたい方、発達障害に関わる方（支援者）に、わかりやすく提供しています。

福祉機器開発部

「『人・生活・ものユーザーの思いを支える』福祉機器の開発と評価」

- ・義肢装具/座位保持装置の試験評価
- ・認知症者の福祉機器展示館
- ・障害児者の自動車上での安全
- ・高齢者向けの生活支援ロボット
- ・電動車いすの臨床評価
- ・電動車いすシミュレータ
- ・車いす搭載形うつ熱予防システム
- ・6点入力式簡易電子メモ装置
- ・トレーニング用バーチャルオフィス
- ・文字保存機能付き透明文字盤システム

(仮称) 障害者ライフモデルルームの紹介

誰もが使いやすい福祉機器と部屋環境を考えるために約12m四方の多目的空間とトイレと風呂を常設した施設をセンター内に設置します。多くの方を対象とした情報発信・情報交換の場として活用する予定です。

